障がい者スキー受入れ基盤整備報告書

2023年4月14日

公益社団法人日本プロスキー教師協会

障がい者スキー教師認定講習会　実施報告

＊2021年4月開催
日　程： 2021年4月7日～9日
会　場： 長野県志賀高原一ノ瀬ファミリースキー場
参加者： 25名
概　要：
これまで40人が資格をもっており、新たに100人の資格取得を目標としており、
長野県志賀高原一ノ瀬ファミリースキー場において、障がい者スキー教師の資格認定会を開催、受講者２５人が資格を取得した。信濃毎日新聞にこの模様が掲載された。

「障害者スキー教師」
志賀高原で認定会

誰もが楽しめる環境作り

資格取得 大幅増目指す

県内を拠点とする障害者スキー教師の有無に関係なくウインタースポーツを楽しめる環境を整えようと、公益財団法人「日本プロスキー教師協会」（東京・東京）が本年度、協会の「障害者スキー教師」の資格を持つ人の増員を目指している。今年度の東京オリンピックなどによる障害者スポーツへの関心の広がりを追い風とした。冬季、第1弾の教師認定会が志賀高原（山ノ内町）のスキー場であった。

協会は日本障害者スキー教師協会の発足（協会内に2009年、障害者スキー委員会を設置）、障害者スキー教師の資格認定を創設した。現在会員約2千人のうち40人が資格を持つ。21年度は日本教師（東京）の助成を受け、新たに100人の資格取得を目標に掲げる。今回のスキー場で、約130あるスキー団体に、最低1人の資格者を置きたいという。

志賀高原の「一ノ瀬ファミリースキー場」で今月、教師認定会を開催。講師は東京から来た教師ら。つた体験者3人ほか人一般になじんだ。次に、教師が障害者役を演じながら指導のポイントを教わりながら滑走。左の写真は、足が不自由な人などが座って乗る「バイスキー」では、スキー板に取り付けられた金具を教師役が後から押さえ、バランスを取りながら滑走。

切り返しは2人が息を合わせないと難しく、受講した浅間さん（59＝茅野市）は「いかに相手の滑りたい意思に寄り添えるか。スキーの技術とは別の能力が試される」と感じた。

障害者スキー教師の資格を取得するため、教員（左）から実技指導を受ける受講生たち

協会は、受講者は長野県内から東北・関東・東海・関西・北陸・中部・東京の8ブロックに分け、各ブロックで教師役を務める人を育てる。受講者は、資格を取得した。

協会は、今後、北海道・東北・関東・中部・関西・中国・九州の7ブロックでも開く。協会の山内正理事長（63）＝新潟県＝は「障害者が楽しめる環境を整えるよう人員や設備の充実を図りたい」と話した。

＊2021年12月開催
日　程：2021年12月6日～8日
会　場：北海道会場　北海道・キロロリゾート
参加者：21名
概　要：
シーズン初めの日程設定ではあったが幸いゲレンデ環境は安定していて、問題なく事業を実施することができた。道内の参加者にとどまらず全国から参加してもらえたことは障がい者スキー教師認定会の周知が徐々に広がっている証と考える。
立位アウトリガーの扱い方、視覚障害者の指導、チェアスキーの操作など3日間の限られた時間の中で参加者受講者は真剣に取り組んでいただいた。最終日の検定会では、全員が合格し認定を受けることができた。
2日目に彬子女王殿下からの励ましのお言葉をいただくことができたことは、参加者皆さんにとってうれしいことであった。あらためてこの障がい者スキーの活動に自信を持って取り組んでいきたいという思いを強くした。

＊2022年2月開催
日　程：2022年2月16日～18日
会　場：西日本会場　岐阜県・めいほうスキー場
参加者：24名
概　要：
不安定な天候にもかかわらず、様々な拠点から総勢24名の意欲的な参加者が集まり懸命に技術習得に努めた。
立位アウトリガーの扱い方、視覚障害者の指導、チェアスキーの操作など3日間の限られた時間の中で参加者受講者は真剣に取り組んだ。受講者のうち20名が資格を取得した。
また、参加者の中にはチェアスキーの自校への導入方法や機材のレンタルについて講師へ質問している場面も見られ、今後の障がい者の指導に向けて積極的な学校が増える可能性が感じられる認定講習会となった。

＊2022年3月開催
日　程：2022年3月8日～10日
会　場：南東北会場　福島県・箕輪スキー場
参加者：23名
概　要：
天候に恵まれた中、東北を中心に様々な拠点から総勢23名の意欲的な参加者が集まり懸命に技術習得に努めた。
立位アウトリガーの扱い方、視覚障害者の指導、チェアスキーの操作など3日間の限られた時間の中で参加者受講者は真剣に取り組み、受講者のうち21名が資格を取得した。
参加者から講師への質問も多く、また、参加者同士でも技術向上に向けて意見の出し合いなども生まれ、今後の障がい者スキー発展に向けて意識の高い認定教師が生まれる兆しの見える認定会となった。

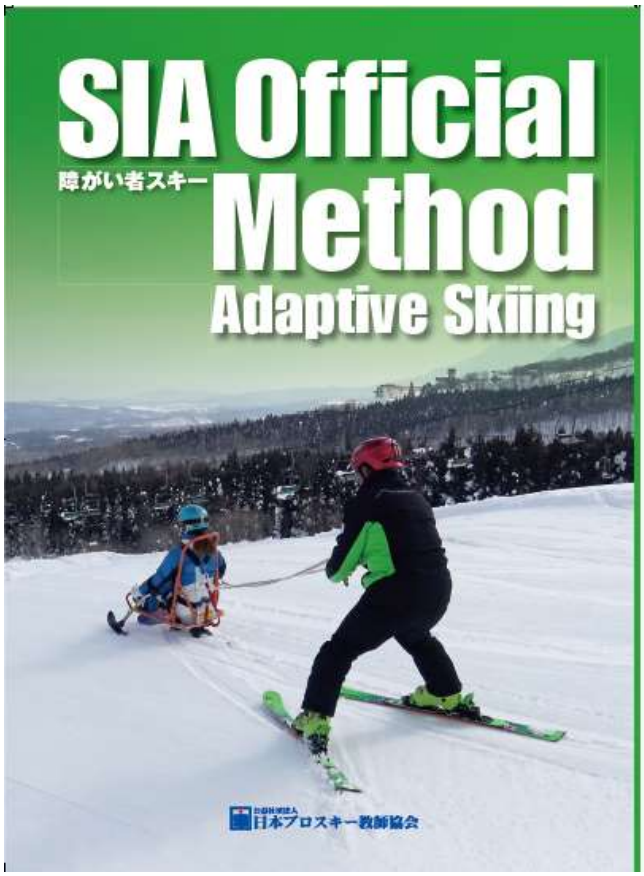
＊2023年2月開催
日　程：2023年2月27日～3月1日
会　場：志賀高原会場　長野県・志賀高原一の瀬ファミリースキー場
参加者：30名
概　要：
天候に恵まれた中、志賀高原を中心に様々な拠点から総勢30名の意欲的な参加者が集まり懸命に技術習得に努めた。
立位アウトリガーの扱い方、視覚障害者の指導、チェアスキーの操作など3日間の限られた時間の中で受講者は真剣に取り組み、受講者のうち27名が資格を取得した。
また、最終日には実際に障がい者の参加者を招き、実践講習も行われ、実際の指導に関する貴重な実習時間となった。
参加者から講師への質問も多く、今後の障がい者スキー発展に向けて意識の高い認定教師が生まれる兆しの見える認定会となった。

障がい者指導テキスト製作・動画制作　実施報告

＊障がい者指導テキスト「「SIA Official Method Adaptive Skiing」」発刊

多くの認定教師、団体、個人のご協力の下、障がい者への指導テキスト「SIA Official Method Adaptive Skiing」の作成が完了し、無事に発刊となり、初版分を全公認校へ一定数発送し、障がい者指導の洗練化、また、認知度の向上を図った。

本書は、「用具の基礎知識」と「指導の概要と障がいの基礎知識」を主なテーマとしており、その他、当協会の障がい者スキーへの取り組みも併せて説明されたものとなっており、認定会における受講生の自学習、現場での指導に役立てているとの声が挙がっている。



＊動画制作
　また、障がい者スキーの普及、指導者の更なる増加を図り、2本の動画素材「SIAの取り組み①（障がい者スキー教師認定講習会）」、「スノースポーツを楽しもう!」を製作した。

2023/4/13
スノースポーツを楽しもう!
https://youtu.be/DDqp1qJQXZs

2021/09/04
SIAの取り組み①（障がい者スキー教師認定講習会）
https://youtu.be/35_5Qe1Upn4

チェアスキー各支部配置　実施報告

全国8支部各地へチェアスキーを配置し、障がい者の受け入れ基盤を整える為、
チェアスキー製作会社のEnabling Technologirs社より、8台の輸入を行った。
製作までは順調に進んだものの、新型コロナウイルス感染症拡大及び世界情勢の影響により、
輸送関係が大幅に遅れ、4月15日に到着。
点検を行った後、下記の8か所へ配置を行った。

＊配置先

北海道支部（北海道・石狩市）
北東北支部（岩手県・八幡平市）
南東北支部（福島県・猪苗代町）
関越支部（新潟県・湯沢町）
志賀高原支部（長野県・志賀高原）
長野東北信支部（長野県・下高井郡）
長野中信支部（長野県・大町市）
西日本支部（福井県・勝山市）

全国のスキー場（公認校が存在する地域）に「障がい者スキー認定教師」を隙間なく配置し、
同時に必要なチェアスキー用具を全国8支部に配備することで、受け入れ態勢を強化することが出来た。
尚、各支部、配置されたチェアスキーを用いて、既に指導を開始している。

障がい者対応の知識を広げるセミナー　実施報告

＊オンラインセミナー「プロスポーツ教師が理解しておきたい【障がいに関する基礎知識】」開催

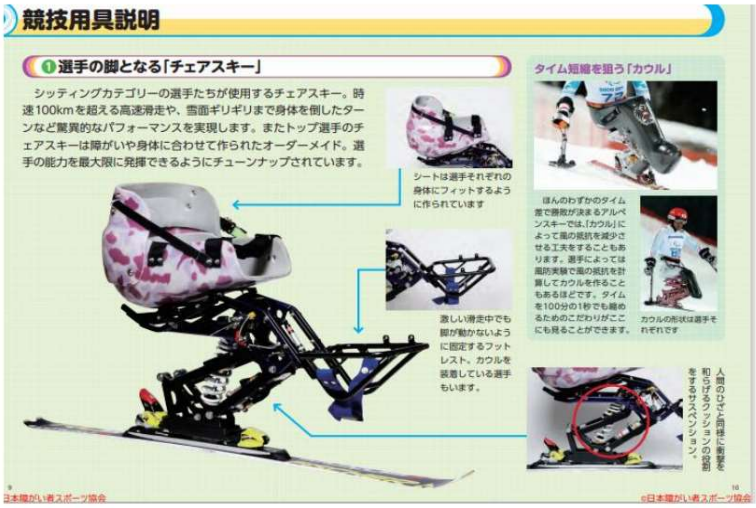
日　時：令和3年10月23日（土）15:00～17:00

会　場：インターネットWEB会議　BlueJeans　協会事務局より配信

講　師：北田利弘様（スポーツ認定理学療法士）

参加者：61名

概　要：

　スポーツ認定理学療法士の北田利弘様を招き、「障がいに関する基礎知識」というテーマでオンラインセミナーを実施、61名の参加者へ講義をいただいた。

　障がいの症例と原因、医療ケア過程等から実際に対応する際の注意点など、基礎から実践まで幅広く学ぶセミナーとなり、実際のレッスン活動に役立てようと質疑応答も活発に行われた。